

テサロニケ人への手紙第二

第6回聖書フォーラムキャンプ

基調メッセージ



メッセージ：中川健一

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

<http://harvesttime.tv>

「テサロニケ人への手紙第二」

中川健一

はじめに

- (1) 聖書フォーラム運動の広がり
 - ①聖書は靈感を受けて書かれた誤りなき「神のことば」である。
 - ②ヘブル的聖書解釈
 - ③イスラエルの役割の聖書的理解
 - ④終末論の重視
- (2) 前回に引き続き、テサロニケの教会から学ぶ。
 - ①異邦人の教会である。
 - ②パウロから直接教えを受けた。
 - ③終末論に関心を持っていた。
- (3) テサロニケという町
 - ①マケドニア属州の主要な港町
 - ②交通の要衝の町
 - ③人口は約 20 万人と推定される。
 - *経済活動が活発な町には、必ずユダヤ人がいた。
 - *「神を敬う（神を恐れる）異邦人」も多くいた。
 - ④偶像礼拝がもたらす道徳的墮落が蔓延していた。
- (4) パウロとテサロニケの教会（使 17：1～10）
 - ①第 2 回伝道旅行（トロアス → ピリピ → テサロニケ → ベレヤ）
 - ②パウロがテサロニケに滞在した期間は、短い。
 - *3 週間にわたるユダヤ人伝道
 - *それに続く異邦人伝道
 - ③ユダヤ人たちの迫害を避けるために、テサロニケを脱出した。
- (5) 第一と第二の手紙の関係
 - ①第一の手紙を書いた後に、再度手紙を書く必要が生じた。
 - ②恐らく、数か月後のことであろう。

③テサロニケ人への手紙第二の執筆年代は、紀元 50 年代の初めである。

(6) 執筆目的

①テサロニケの信者たちは、苦難の中で戦っていた。

＊励ましが必要（1 章）

②教理的に誤った教えが広がっていた。

＊正しい教えが必要（2 章）

③放縦な生き方をする信者が出ていた。

＊戒めが必要（3 章）

アウトライン

I. 苦難の中にいる信者への励まし（1：1～12）

A. あいさつ（1：1～2）

B. パウロの感謝（1：3～4）

C. 神の正しい裁き（1：5～10）

D. パウロの祈り（1：11～12）

II. 主の日に関する誤解の矯正（2：1～17）

A. 背教が起こる（2：1～3）

B. 神殿が建てられる（2：4～5）

C. 引きとめるものが取り去られる（2：6～12）

D. 教会が完成する（2：13～17）

III. 放縦な生き方に対する勧告（3：1～18）

A. 祈りと忍耐（3：1～5）

B. 労働と食事（3：6～13）

C. 従順な者と不従順な者（3：14～15）

D. あいさつと祝祷（3：16～18）

I. 苦難の中にいる信者への励まし（1：1～12）

A. あいさつ（1：1～2）

1. 1 節

1 パウロ、シルワノ、テモテから、私たちの父なる神および主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教会へ。

- (1) いつものように、パウロはあいさつのことばで手紙を書き始めている。
- ①差出人は、パウロ、シルワノ（シラス）、テモテである。
 - ②この3人が一緒にいたのは、コリントである（使 18：1、5）。
 - ③シラスとテモテは、最初の手紙を届けてからコリントに戻って来た。
 - ④その直後に、テサロニケ人への手紙第二が書かれたと推測される。
 - ⑤すぐに次の手紙を書いた理由は、対処すべき問題が生じていたからである。
- (2) 受取人は、テサロニケの教会である。
- ①教会は、「私たちの父なる神および主イエス・キリストにある」存在である。
 - ②父なる神と主イエス・キリストが同じレベルに置かれている。
 - ③教会は、主イエスを通して父なる神と和解した個人の群れである。
 - ④これ以外のものは、教会とは言えない。

2. 2 節

2 父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。

- (1) 「父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があるように」
- ①「平安」とは、「神との平和」である。
 - ②「恵み」とは、約束に対する神の忠実さである。
 - ③クリスチャンは、キリストの犠牲のゆえに神との平和を得た。
 - ④クリスチャンは、いかなる場合でも「恵みと平安」の受け手である。
- (2) 試練の中にいるテサロニケの信者にとっては、意味深いあいさつである。
- ①外面的に試練に会っても、内面的には恵みと平安を体験できる。

B. パウロの感謝（1：3～4）

1. 3 節

3 兄弟たち。あなたがたのことについて、私たちはいつも神に感謝しなければなりません。そうするのが当然なのです。なぜならあなたがたの信仰が目に見えて成長し、あなたがたすべての間で、ひとりひとりに相互の愛が増し加わっているからです。

- (1) パウロが神に感謝する理由①
- ①試練が彼らの信仰を目に見えて成長させている。
 - ②感謝するのが当然である。負債を喜んで返すような心意気が感じられる。
 - ③クリスチャンの信仰は、静止したものではない。

④キリストとの関係は、常に成長し続けるものである。

(2) パウロが神に感謝する理由②

- ①彼らの間で、お互いに対する愛が増し加わっている。
- ②神への愛が増し加わると、お互いに対する愛も増し加わる。
- ③信仰は根であり、愛は実である。
- ④テサロニケの教会は、特に優れた教会である。

2. 4 節

4 それゆえ私たちは、神の諸教会の間で、あなたがたがすべての迫害と患難とに耐えながらその従順と信仰とを保っていることを、誇りとしています。

(1) パウロがこの教会を誇りとする理由

- ①彼らは、迫害と患難とに耐えながら、その従順と信仰とを保っている。
- ②彼らの信仰の姿勢は、諸教会の中にあって良き手本となっている。
- ③その教会の開拓者であるパウロは、そのことを誇りとしている。
- ④誇りには良いものと悪いものがある。ここでの誇りは前者である。

C. 神の正しい裁き（1：5～10）

1. 5 節

5 このことは、あなたがたを神の国にふさわしい者とするため、神の正しいさばきを示すしるしであって、あなたがたが苦しみを受けているのは、この神の国のためです。

(1) ここでパウロは、苦難の意味について解説している。

- ①苦難の中にいる信者たちを励ますためである。
- ②クリスチャンになると、苦難の意味が全く違ってくる。

(2) 信者が苦難に会うのは、神の栄光のためである。以下にその理由を記す。

- ①人は、信仰と恵みによって神の国に入る（義認）。
- ②人は、苦難によって神の国に入る資格を得るわけではない。
- ③信者は、不信者なら耐えられないような試練にも打ち勝つことができる。
- ④それは、内側に新しいいのちをいただいているからである。
- ⑤試練は、その新しいいのちを引き出し、信者の信仰を成長させる（聖化）。
- ⑥裁きの時、神は成長した信者を「神の国にふさわしい者」と認めてくださる。

(3) 信者は、キリストの兵士として苦難に会うのである。

2. 6～7 節

- 6 つまり、あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え、
7 苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えてくださることは、神にとって正しいことなのです。そのことは、主イエスが、炎の中に、力ある御使いたちを従えて天から現れるときに起こります。

(1) 神は正しい方である。

①これは、創世記から黙示録までを貫く基本的な真理である。

(2) では、神が正しい方であることが、どのようにして証明されるのか。

①神は、信者を苦しめる者には、報いとして苦しみを与える。

②神は、苦しめられている者には、報いとして平安を与える。

(3) そのことはいつ起こるのか。

①「主イエスが、炎の中に、力ある御使いたちを従えて天から現れるとき」

②これは、携挙ではない。

③主イエスの地上再臨を指す。

④これは、イエスご自身が語られた内容でもある（マタイ 25：31）。

3. 8～9 節

- 8 そのとき主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に報復されます。
9 そのような人々は、主の御顔の前とその御力の栄光から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受けるのです。

(1) 再臨のキリストによる裁き

①2 種類の人たちが裁かれる。

＊「神を知らない人々」（ロマ 1：18～32 参照）

＊「福音に従わない人々」（ヨハ 3：36 参照）

②これは、罪を愛する者や、福音を拒む者に対する神の正しい裁きである。

＊後者の裁きの方が厳しい。

(2) 信じる者は永遠のいのちを受け、信じない者は永遠の滅びの刑罰を受ける。

①「主の御顔の前とその御力の栄光から退けられ」（イザ 2：10 参照）

②これは、永遠の刑罰を意味したことばである。

③パウロ書簡の中で、刑罰の永遠性を最も明確に教えている箇所である。

4. 10 節

- 10 その日に、主イエスは来られて、ご自分の聖徒たちによって栄光を受け、信じたすべての者の——
そうです。あなたがたに対する私たちの証言は、信じられたのです——感嘆的となられます。

- (1) 「その日、主イエスは来られて」
 - ①これは、キリストの地上再臨の日である。
 - ②携挙は裁きを伴わない。
- (2) 再臨のキリストは、すべての聖徒によって栄光を受ける。
 - ①地上に残されている信者たちだけではない。
 - ②携挙され、キリストとともに地上に戻って来た聖徒たち全員が加わる。
- (3) このような逆転劇がないなら、迫害に耐える力は湧いてこない。
 - ①試練は、神の正しさの「しるし」である。
 - ②神の裁きによって、すべてが逆転させられる。
 - ③初期の信者たちは、キリストの再臨を待ち望みながら生きていた。

D. パウロの祈り（1：11～12）

1. 11 節

¹¹ そのためにも、私たちはいつも、あなたがたのために祈っています。どうか、私たちの神が、あなたがたをお召しにふさわしい者にし、また御力によって、善を慕うあらゆる願いと信仰の働きとを全うしていただきますように。

- (1) この手紙には、4つの祈りが記されているが、これが最初の祈りである。
 - ①以上の啓示を解説したパウロは、祈りに導かれる。
 - ②パウロの一行は、常にテサロニケの信者たちのために祈っている。
 - ③祈りの内容は、彼らが召しにふさわしい歩みをするようにということ。
 - ④救いを得るためではなく、救いを得たので、そのように歩むのである。
 - ⑤それを可能にする力は、神から与えられる。

2. 12 節

¹² それは、私たちの神であり主であるイエス・キリストの恵みによって、主イエスの御名があなたがたの間であがめられ、あなたがたも主にあって栄光を受けるためです。

- (1) この祈りの最終目的は、神の栄光である。
 - ①信者は、試練の中で、また再臨を通して神の栄光を現す器である。
 - ②「御名があがめられ」とは、主イエスのご人格が認められることである。
 - ②その目的が達成されたとき、器自身も栄光を受ける。
- (2) 将来の祝福を確信することは、試練に打ち勝つ力となる。
 - ①地上での力関係が逆転する。
 - ②神の栄光をゴールに生きる者は、主にあって栄光を受けるようになる。

Ⅱ．主の日に関する誤解の矯正（２：１～１７）

A．背教が起こる（２：１～３）

１．１節

１ さて兄弟たちよ。私たちの主イエス・キリストが再び来られることと、私たちが主のみもとに集められることに関して、あなたがたにお願いすることがあります。

- (1) 再臨に関する誤解が広がっていた。
 - ①誤った教えを広める人たちが活動していた。
 - ②パウロは前回の手紙の中でこう教えていた。
 - *再臨は確実に起こる。
 - *その時がいつかはだれにも分からない。
 - ③ところが、ある人たちは「主の日」がすでに来たかのように教えていた。
- (2) パウロは、教理的誤りを正そうとしている。
 - ①2 テサ 2：1～17 は、聖書の他の箇所には見られない真理を啓示している。
 - ②教理的誤りは、真理から逸脱した行動につながる。
 - ③そこでパウロは、「お願いすることがあります」と書いている。
 - ④「私たちの主イエス・キリストが再び来られることと、私たちが主のみもとに集められることに関して」とは、「携挙に関すること」の意である。
 - ⑤この言葉によって、パウロは冒頭から信者の心を掴んだ。

２．２節

２ 霊によってでも、あるいはことばによってでも、あるいは私たちから出たかのような手紙によってでも、主の日がすでに来たかのように言われるのを聞いて、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。

- (1) 「主の日」とは、旧約聖書に頻繁に登場する用語である。
 - ①神が、地上に生きる人たちに直接裁きと恵みをもたらす期間である。
 - ②携挙の後にやって来る。
 - ③この期間に、大患難時代と地上再臨が含まれている。
- (2) パウロは、1 テサ 5：2 でこう書いている。

「主の日が夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです」
- (3) ところが、偽教師たちは「主の日」はすでに来たと教えていた。
 - ①預言、噂話、パウロから来たという手紙など

②そのため、動揺する人たちが出てきていた。

(4) 信者たちの不安

①パウロは、携挙の後に大患難時代がやって来ると教えていた（1 テサ 1：10）。

②また、信者は「神の怒りに会うことはない」と教えていた（1 テサ 5：9）。

③今の苦難は大患難時代に入ったことのしるしではないかと不安になった。

④もし「主の日」がすでに来たのなら、携挙の恵みから漏れたことになる。

(5) パウロは、テサロニケの信徒たちの動揺を静めようとしている。

①携挙はまだ起こっていないから、安心せよ。

②携挙は、空中再臨とも言われる。

3. 3 節

3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。

(1) 再臨の教理ほど、惑わされやすいものはない。

①「人に惑わされないように気をつけなさい」（マコ 13：5）

②パウロもまたイエスと同じ警告を発している。

③新しい信者は、騙されやすい。

＊カリスマ性のある人物に

＊奇跡的な事象に

④神のこトバを正しく学ぶことが、解決策である。

(2) 主の日が来る前の主な出来事

①まず背教が起こる。

＊背教とは、「真理からの逸脱」である。

＊キリスト教会が、キリスト教の基本的真理を否定するようになる。

②次に、不法の人が現われる。

＊不法の人とは、「滅びの子」、「破滅に定められた者」を意味する。

＊「反キリスト」のことである。

B. 神殿が建てられる（2：4～5）

1. 4 節

4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

(1) 反キリストは、自らを神だと宣言する。

①彼は、実際の間人である。

＊海から上がってくる一匹の獣（黙 13：1～10）

＊緋色の獣（黙 17：3）

＊獣（黙 17：8、17：16、19：19～20、20：10）

＊反キリスト（1ヨハ2：18）

②彼は、すべて神と呼ばれるものに反抗する。

③最後は、神殿の中で自分を高く上げ、自分を神として礼拝するよう要求する。

＊黙 13 章の「獣」の活動参照

(2) これが起ころためには、神殿が建っている必要がある。

①これが第三神殿、大患難時代の神殿である。

②教会教父たちは、これを文字通りの神殿と解釈した。

2. 5 節

5 私はまだあなたがたのところにいたとき、これらのことをよく話しておいたのを思い出しませんか。

(1) パウロは、彼がテサロニケにいたころに教えたことを再確認している。

①これは新しい教えではなく、すでに教えられていたことである。

②新しい信者は、繰り返し学ばないとすぐに忘れてしまう。

(2) パウロは、新しい信者にも終末論を教えた。

①彼は、神の計画の全貌を教えたのである。

C. 引きとめるものが取り去られる（2：6～12）

1. 6 節

6 あなたがたが知っているとおりに、彼がその定められた時に現れるようにと、いま引き止めているものがあるのです。

(1) 今は、不法の人の現われを引き止めているものがある。

①パウロは、「いま引きとめているもの」がなんであるかを書いていない。

②テサロニケの信徒たちには教えていた。

2. 7 節

7 不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分を取り除かれる時まで引き止めているのです。

- (1) 「不法の秘密」とは何か。
 - ① 「秘密」とは、「ミステリー（ムステイリオン）」である。
 - * 今まで隠されていたが、新約時代になって新しく啓示された真理
 - ② 「不法」が終末時代にどのようなになるかが啓示された。
 - ③ その内容が、「不法の秘密」である。
 - ④ それはまだ成就していないが、すでに働いている。
 - ⑤ しかし、「引き止める者」があるので、その程度は制限されている。
- (2) 「引き止めている者」とは何か。
 - ① ローマ帝国
 - ② サタン
 - ③ 人間の政府（ローマ 13：1～7 参照）
 - ④ 聖霊
 - ⑤ 聖霊が内住する教会
- (3) 「引き止めるもの」（6 節）と「引き止める者」（7 節）
 - ① 前者は中性形、後者は男性形の分詞である。
 - ② これは、聖霊のことである。
 - ③ 聖霊は教会を通して働いておられる。
 - ④ 携挙が起こると、教会は地上から取り去られる。

3. 8 節

8 その時になると、不法の人が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。

- (1) 引き止める者が取り去られると、不法の人はその本性を現わすようになる。
 - ① 彼は、「不法の人」、すなわち「滅びの子」である（2 テサ 2：3）。
 - ② 彼は、「来るべき君主」である（ダニ 9：26～27）。
- (2) 8 節は、7 年以上の期間をカバーしている。
 - ① 携挙の後すぐに反キリストが現れる。
 - ② 反キリストはイスラエルと 7 年の契約を結ぶ。
 - ③ これが患難時代の始まりとなる。
 - ④ 患難時代の最後にキリストが再臨される。
 - ⑤ キリストは、反キリストを滅ぼされる。
- (3) 「主は御口の息をもって彼を殺す」
 - ① イザ 11：4

「正義をもって寄るべのない者をさばき、公正をもって国の貧しい者のために判決を下し、口のむちで国を打ち、くちびるの息で悪者を殺す」

②黙 19 章では、神の敵が白い馬に乗った方の口から出る鋭い剣によって滅ぼされると預言されている。

4. 9～12 節

- 9 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに
 10 また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。
 11 それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。
 12 それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。

(1) 不法の人を背後で操るのは、サタンである。

- ①不法の人（反キリスト）は、サタンから権威と力を受ける（黙 13：2）。
 ②超自然的な業（偽りの力、しるし、不思議）で人々を欺く。
 ③つまり、自分を神だと人々に思い込ませる。

* 黙 13：2～4、17：8 参照

(2) 欺かれるのは、滅びる人たちである。

- ①彼らは判断力に欠けるので、容易に惑わされる。
 ②彼らが滅びるのは、救いにつながる真理を愛そうとしなかったからである。

(3) 神は、不信仰な者たちが偽りを信じるように惑わす力を送り込まれる。

- ①それは、悪を喜んでいたすべての者を裁くためである。
 ②福音を拒否すれば、迷いはさらに深くなる。

D. 教会が完成する（2：13～17）

1. 13～14 節

- 13 しかし、あなたがたのことについては、私たちはいつでも神に感謝しなければなりません。主に愛されている兄弟たち。神は、御霊による聖めと、真理による信仰によって、あなたがたを、初めから救いにお選びになったからです。
 14 ですから神は、私たちの福音によってあなたがたを召し、私たちの主イエス・キリストの栄光を得させてくださったのです。

(1) パウロは、テサロニケの信者について 4 つの理由で神に感謝を捧げている。

- ①彼らは、初めから神によって救いに選ばれていた。

* 人が信者になるのは、創造の初めからそのように選ばれていたから。

- *と言っても、未信者の人は選ばれていなかったという意味ではない。
- ②彼らは、聖霊によってこの世から分かれたれていた。
- ③そのために、パウロが福音を宣べ伝えたときに、それを信じることができた。
- ④彼らが召された理由は、主イエス・キリストの栄光を得るためである。

2. 15 節

15 そこで、兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、または手紙によって教えられた言い伝えを守りなさい。

- (1) 以上の4点を前提として、パウロは勧めのことばを書き送る。
 - ①信仰は、「福音の理解」という基礎の上に建てられるべきものである。
 - ②信仰は、具体的な行動へとつながるものである。
 - ③それゆえ、「教えられた言い伝え」に堅く立ち、それを守るように。
 - ④つまり、パウロから教えられた再臨に関する教えを信じ、患難の中にあっても揺らぐことがないようにということである。

3. 16～17 節

16 どうか、私たちの主イエス・キリストと、私たちの父なる神、すなわち、私たちを愛し、恵みによって永遠の慰めとすばらしい望みとを与えてくださった方で自身が、
17 あらゆる良いわざとことばとに進むよう、あなたがたの心を慰め、強めてくださいますように。

- (1) このことが実現するようにと、パウロは父なる神に祈りを捧げている。
 - ①神は、私たちに永遠の慰めを与え、すばらしい望みを与えてくださった。
 - ②神は、必ず私たちを守り、育ててくださる。
- (2) 真理を正しく理解することが、正しい行動を生み出す。

Ⅲ. 放縦な生き方に対する勧告（3：1～18）

A. 祈りと忍耐（3：1～5）

1. 1～2 節

1 終わりに、兄弟たちよ。私たちのために祈ってください。主のみことばが、あなたがたのところと同じように早く広まり、またあがめられますように。
2 また、私たち、ひねくれた悪人どもの手から救い出されますように。すべての人が信仰を持っているのではないからです。

- (1) パウロは、祈りの要請をしている。
 - ①パウロの謙遜の現れである。祈っている相手に対して要請している。

- ②伝道チーム全体のために祈りを要請している。
- ③どんな人でも、他の信者から祈ってもらう必要がある。

(2) 祈りの内容

- ①福音のことばが、テサロニケでそうであったように、他の場所でも（特にここではコリントで）早く広まり、あがめられるように。
 - *宣教の成否は、神の祝福にかかっている。
 - *神が福音を聞く人の心を開いてくださる。
 - *これは、テサロニケの信者たちの体験でもあった。
- ②自分たちが、悪人の手から救い出されるように。
 - *宣教の業が不信者の激しい反対に会うことがあると知っていた。
 - *テサロニケでの事件（使 17：5～9 参照）
 - *ねたみにかられたユダヤ人は、ならず者をかり集め、暴動を起こした。

(3) 福音のメッセージには、肯定的反応と否定的反応とがある。

- ①語るのを恐れてはならない。

2. 3～5 節

- 3 しかし、主は真実な方ですから、あなたがたを強くし、悪い者から守ってくださいます。
- 4 私たちが命じることを、あなたがたが現に実行しており、これからも実行してくれることを私たちは主にあって確信しています。
- 5 どうか、主があなたがたの心を導いて、神の愛とキリストの忍耐とを持たせてくださいますように。

(1) 現実の問題があっても、パウロには確信があった。

- ①彼は、2つのことを確信している。

(2) 主は真実で信頼できるお方であるとの確信

- ①主は真実な方である。
- ②主はご自身に信頼する者を強くし、悪い者から守ってくださる。

(3) テサロニケの信者たちに関する確信

- ①キーワードは、「主にあって」である。
- ②単に人間的な誠実さを確信しているのではなく、主にあるならそうなるということ、確信している。

(4) 確信から出て来る祈り

- ①神の愛とキリストの忍耐について黙想する人は祝福を受ける。
- ②その人は、愛と忍耐の人となる。

B. 労働と食事（3：6～13）

1. 6 節

6 兄弟たちよ。主イエス・キリストの御名によって命じます。締めりのない歩み方をして私たちから受けた言い伝えに従わないでいる、すべての兄弟たちから離れていなさい。

(1) 1 テサ 4：11～12

「また、私たちが命じたように、落ち着いた生活をすることを志し、自分の仕事に身を入れ、自分の手で働きなさい。外の人々に対してもりっぱにふるまうことができ、また乏しいことがないようにするためです」

①この勧告に従わない人たちが依然として存在していた。

②そこでパウロは、その人たちにどのように対処すべきかを書き送った。

(2) 「締めりのない歩み方をしている者」とは、働くことができるのにそうしない人のことである。

①彼らは、怠惰な生活をすることによってまじめに働く人々を利用していた。

②彼らは、教会内に悪い影響を与えていた。

③彼らは、再臨が近いから働く意味がないと考えていた。

④もちろん、これはパウロの教えに反することである。

(3) パウロは、そういう者とは離れていなさいと勧めている。

①1 テサ 5：14 では、「気ままな者を戒め、」とあった。

②第一段階の勧告が機能しなかったので、第二段階の勧告に入る。

③ここでパウロは、毅然とした態度を取っている。

④「主イエス・キリストの御名によって命じます」とある。

2. 7～9 節

7 どのように私たちを見ならうべきかは、あなたがた自身が知っているのです。あなたがたのところ
で、私たちは締めりのないことはしなかったし、

8 人のパンをただで食べることもしませんでした。かえって、あなたがたのだれにも負担をかけまい
として、昼も夜も労苦しながら働き続けました。

9 それは、私たちに権利がなかったからではなく、ただ私たちを見ならうようにと、身をもってあな
たがたに模範を示すためでした。

(1) パウロは、自分が示した模範に従うようにと勧める。

①テサロニケ伝道では、パウロの一行は締めりのない生活はしなかった。

②テサロニケの人々も、その模範に従うべきである。

③パウロのメッセージを信じることとパウロの模範に従うことは不可分の関係にある。

(2) パウロには、福音に仕える者として報酬を受ける権利があった。

- ①しかし彼は、その権利を放棄して、昼夜働いた。
- ②それは、伝道の業がそしられることのないためであった。
- ③経済的支援を受けたことはないという意味ではない。
- ④自給伝道を原則としたということである。

(3) パウロは一貫して、自分の模範に倣ってほしいと主張している。

- ①1 コリ 4：16、11：1、ピリ 4：9、1 テサ 1：6 など参照

3. 10～12 節

- 10 私たちは、あなたがたのところにいたときにも、働きたくない者は食べるなと命じました。
- 11 ところが、あなたがたの中には、何も仕事をせず、おせっかいばかりして、締まりのない歩み方をしている人たちがあると聞いています。
- 12 こういう人たちには、主イエス・キリストによって、命じ、また勧めます。静かに仕事をし、自分で得たパンを食べなさい。

(1) パウロは、「働きたくない者は食べるな」と命じていた。

- ①恐らく、教えの要約であろう。
- ②働けないのではなく、働きたくないのである。

(2) コリントにいたパウロのもとに、テサロニケの状況が伝わってきた。

- ①「何も仕事をせず、おせっかいばかりして、締まりのない歩み方をしている人たちがいた。

(3) パウロは、主イエス・キリストによって直接命じ、勧めている。

- ①主の日に関する教えを理解したなら、静かに仕事をすべきである。
- ②自分で得たパンを食べるように。
- ③他の人々に迷惑をかけたり、邪魔をしったりしないように。

4. 13 節

- 13 しかしあなたがたは、たゆむことなく善を行いなさい。兄弟たちよ。

(1) 教会全体に対しては、「たゆむことなく善を行いなさい」と勧める。

- ①大半が忠実な信者たちである。
- ②悪い例に流されることのないようにという勧告である。

(2) 教会内には、本当に援助を必要としている人たちがいた。

- ①一部の怠惰な人たちのゆえに、必要を抱えた人たちへの愛と配慮を怠ってはならない。

C. 従順な者と不従順な者（3：14～15）

1. 14～15 節

14 もし、この手紙に書いた私たちの指示に従わない者があれば、そのような人には、特に注意を払い、交際しないようにしなさい。彼が恥じ入るようになるためです。

15 しかし、その人を敵とはみなさず、兄弟として戒めなさい。

(1) もしパウロの指示に従わない者がいれば、厳しく接する。

①その人たちとは交際しないようにとの勧告が語られる。

②教会全体で行う懲戒への言及はない。

③恐らく、各信者が自主的に行うべきことであろう。

(2) 絶交の目的は、信仰の回復である。

①絶交された者は敵ではなく、兄弟である。

②その兄弟が悔い改めに至るように、愛をもって勧告すべきである。

D. あいさつと祝福（3：16～18）

1. 16 節

16 どうか、平和の主で自身が、どんな場合にも、いつも、あなたがたに平和を与えてくださいますように。どうか、主があなたがたすべてと、ともにおられますように。

(1) この書簡での4回目の祈り（1：11～12、2：16～17、3：5）

①執りなしの祈りである。

②真理に従うことによって、信者の間に平和があるように。

(2) 平和を与えるのは主で自身である。

①信者が主とどのような関係にあるかで、教会の霊的状态は決まる。

2. 17 節

17 パウロが自分の手であいさつを書きます。これは私のどの手紙にもあるしるしです。これが私の手紙の書き方です。

(1) パウロ書簡の特徴

①書記に口述筆記させた。

②最後にパウロが短い挨拶を書いた。

③読者は、パウロの筆跡だと確認できた。

3. 18 節

18 どうか、私たちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたすべてとともにありますように。

- (1) 1 テサ 5：28 とほとんど同じである。
 - ①「すべて」という言葉が追加されている。
 - ②パウロの教えにすべての信者が同意するようというアピールである。
 - ③そのような一致は、「主イエス・キリストの恵み」によってのみ可能となる。

結論

はじめに

- (1) 再臨のテーマは、1 テサロニケのすべての章と 2 テサロニケの最初の 2 章に出て来る。
 - ①パウロは、信じた直後の信者に再臨について教えた。
- (2) 預言が与えられている目的は、日常の歩みに良い影響を与えるためである。
 - ①再臨を待望することは、信者に良い影響を与える。
 - ②以下に、代表的な良い影響を 7 つ記す。

1. 清い生活を送ろうとする動機になる。

「平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだに完全に守られますように」(1 テサ 5：23)

「キリストに対するこの望みをいだく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします」(1 ヨハ 3：3)

2. 滅びゆく人に福音を伝えようとする動機になる。

「そこでロトは出て行き、娘たちをめとった婿たちに告げて言った。『立ってこの場所から出て行きなさい。【主】がこの町を滅ぼそうとしておられるから。』しかし、彼の婿たちには、それは冗談のように思われた」(創 19：14)

3. 物質へのこだわりから解放されていくための力となる。

- (1) レビ 25：8～10 にヨベルの年（50 年目）の規定がある。
- (2) 土地の価値は、ヨベルの年が近づけば下がる。

4. 試練や迫害に耐えるための力となる。

「今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます」(ロマ 8：18)

5. 忠実なしもべとして働くことの動機となる。

「わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行わなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます」(ヨハ9:4)

6. 伝道のための強力なツールとなる。

「そういうわけですから、あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。それは、主の御前から回復の時が来て、あなたがたのためにメシヤと定められたイエスを、主が遣わしてくださるためなのです」(使3:19~20)

7. 天的な視野を開く力となる。

「こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。私たちのいのちであるキリストが現れると、そのときあなたがたも、キリストとともに、栄光のうちに現れます」(コロ3:1~4)

MEMO

さらに聖書を学びたい方へ

聖書の学びに役立つ情報やメッセージが、以下のウェブサイトで提供されています。

メッセージステーション

中川健一牧師による聖書解説メッセージが、インターネット上の「メッセージステーション (<http://message-station.net>)」で無料配信されています。聖書がヘブル的（ユダヤ的）視点で解き明かされています。

なお、メッセージステーションのメッセージは以下のサイトでも配信されています。

音声

- (1) Apple iTunes（「メッセージステーション」で検索。iPhone、iPadなどで購読すれば、最新メッセージを自動でダウンロードすることができます）
- (2) <http://message-station.audio>（メッセージステーションのアクセスが混み合っている時は、ここにアクセスしてみるといいかもしれません）

動画

- (1) YouTube (<http://www.youtube.com/user/HarvestTimeMin>)
- (2) Vimeo (<http://vimeo.com/harvestjapan/>)

聖書入門.com

聖書入門.com (<http://seishonyumon.com/>) は、初心者向けに聖書を解説したサイトです。その中でも、中川健一牧師が聖書やキリスト教に対する疑問に3分間で答える動画、「3分でわかる！聖書」が好評です。コンテンツは頻繁に更新されますので、定期的にサイトを訪れてみてください。

オンラインショップ

ハーベスト・オンラインショップ (<http://harvestshop.net/>) では、電子書籍『クレイ聖書解説コレクション』をはじめ、聖書を本格的に学ぶための書籍やDVD、CDを購入できます。



無断複製・転載を禁じます